

2 草地更新の地域的課題（施工時期の分散）

(1) 草地整備事業の現状

根室管内では近年急速に経営規模の拡大が進み、それに伴い飼養頭数あたりの飼料畑面積が不足する傾向にあります。酪農専業地帯の最大の強みである「粗飼料生産基盤を確立」するため、各種事業を活用して計画的な草地更新が進められてきました。

一方、年間収量を確保するため草地更新の時期は1番草収穫後の夏施工に集中している現状があります。また、施工面積の大きい根室管内では、草地更新の作業は外部委託することが一般的です。しかし、施工できる業者は数社に限られ、施工時期の集中により施工可能面積には限界があります。そのため、気象条件などによって作業の実施が遅れて牧草の出芽揃いや雑草防除などが不十分となり、期待した事業効果が得られなくなるリスクが生じます。

その課題を解決するため、春施工や初冬季は種（フロストシーディング：8ページ参照）による施工時期の平準化（分散化）や、麦類同伴栽培による収量確保などの対策は検討の余地があります。

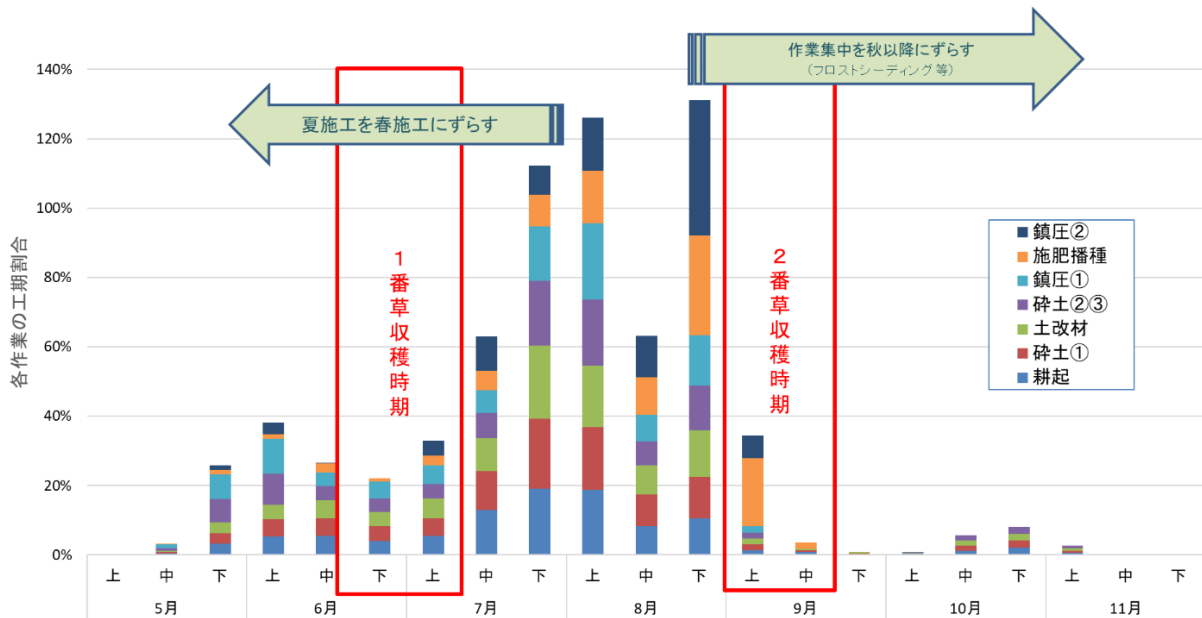


図 V-2 草地整備作業が一時期に集中している（根室振興局農村振興課データ一部改編）

(2) ほ場の観察不足による草地更新の失敗事例

根室管内の酪農は規模拡大を背景にアウトソーシング（外部委託化）が進み、草地更新や収穫などの作業もコントラクターなどに外部委託するケースが増えています。そのため、ほ場を観察する機会が減っていることが考えられます。

自家草地の植生を意識的に観察し、マメ科率や裸地の程度、雑草の種類や優占割合などを把握しましょう。草地更新にあたっては、雑草の種類に応じた除草剤の効果的な使用や適正な施工技術などを検討し、外部委託の際は施工業者と十分に打ち合わせしましょう。



写真 V-1 シバムギ優占草地の更新には適正な除草剤の使用が必要